

令和3年度
印西市民アカデミーだより
 第18号

印西の歴史散策 17 (本埜/中根・竜腹寺)

立春の2月4日、庭先のほころび始めた梅の花に春の気配を感じながら、緑豊かな大地に広がる中根・竜腹寺地区を散策しました。コースは、本埜公民館→福寿院観音堂→福寿院→中根鳥見神社→龍腹寺地蔵堂・日枝神社→八幡神社→東漸寺・不動堂→本埜公民館(約 5.0 km)です。



▲福聚院の斜め向かいにある観音堂には、市内でも最古級に位置づけられる嘉元4年(1306年)11月銘の武蔵型板碑が3点残っています。

▲毎年10月17日は鳥見神社の祭礼で、社殿前の神楽殿で県無形民俗文化財に指定されている大和神楽が奉納されています。



▲天台宗に属する玄林山勝光院龍腹寺は、縁起によれば平安時代の大同2年(807年)の創建といわれています。地蔵堂境内の梵鐘は、製作年代は刻まれていませんが、南北朝時代の特徴を持つものといわれています。



▶市無形民俗文化財指定の八幡神社の獅子舞は、毎年4月第3日曜の午後に東漸寺の境内で7つの演目が舞われます。終わると八幡神社と鳥見神社へ奉納に向かいます。



▲小高い丘の上に建てられている不動堂からは、東西に広がる谷津の風景が眺められます。